

(2) 楽しい未来を想像させてあなたとの時間の期待値を上げる会話テクニック

※サンプルページの為、一部黒塗りで内容を省略しています。(製品版では全ての情報が公開)

◇用途：デートでのクロージングやその前段階で男性の価値を増幅させるテクニック

◇重要度：☆☆☆☆☆

(☆ 5段階：星が多いほど重要)

◇難易度：☆☆☆☆

(☆ 5段階：星が多い程難しい)

女性に「会いたい！！」とか

「もっと一緒にいたい！！」と思わせる為には、

単純にあなた自身のことをアピールするだけではなくて、

“如何にして の に を感じさせるか??”

がとても重要となってきます。

何故なら、人が何かを選択したり決断したりするの時の判断材料として、
『』がその基準として扱われているからです。

つまりですね、人が『何かの選択（or 決断）』をするときに、

“を手にするのか？？”

という部分を瞬時に感じ取って判断しているというわけですね。

また、恋愛の場面で言い換えれば、

『』とは、

“男性と一緒に過ごすことで、

どれだけにとってのを実現できるか？？”

という期待感の表れだと思ってもらっていいでしょう。

実はこの感覚、女性だけではなく、

そして、**何よりここが一番重要なポイント！！**

実際に、あなたが [] を買いたいと思う一番の動機は、

『“ [] が理想なものとなっているかどうか？？』

という心理である可能性が高いという話です。

つまり、どういうことかと言うと、

[] を [] によって

- [] から [] な [] を持たれる
- [] との [] で [] と褒められている
- [] に [] な [] だと言われる

というように、

自分が「 [] 」と [] を

手にできるかを無意識に感じ取って、

買うか否かの選択を行っていると言えるわけです。

よくよく考えてみたら、

- ✓ [] (は [] か??
- ✓ [] の [] との [] は大丈夫か??
- ✓ [] の [] の [] になっているか??

というような、これらの合理的なチェック項目は、

あくまで [] の [] を手にする為の“ [] ”

に過ぎないと言えるでしょう。

言ってしまうと、買うまでに悩むプロセスは全て、

“ [] から [] とか [] と [] から ”

ひいては、

“ [] に [] から ”

存在するわけで。

ですから、服を買う時に決して

「な を たり」

「な を を たり」

「な を したり」

することがあなたの真の目的ではないはずですよ。

少なからず、私が服を買う時は、

ストレートに

“や で から どう か？？”

更には

“な に か？？”

を意識して買うか否かの判断をしています。

極論、それらの目的が達成できるのあれば、

■■■■が合わなくとも、

■■■■が下手くそでも、

■■■■がダサくとも、

構わないと思っているところもありますね。

さっきも言ったように、

“■■■からの■■■が■■■こと”

又は、

“■■■を■■■&■■■から■■■こと”

といったこれらの結果が、

そもそも服を買うことの

真の目的であると理解しているから。

もちろん、これがファッションだけではなく、
ダイエットにしても同じことが言えるでしょう。

ダイエットで [] を [] (は、何も []
その [] の [] でもないわけです。

・・・そうではなくて、

人生で最重要と言えるほどの [] である『 [] 』から
『 [] 』と『 [] 』がために
多くの男性はダイエットに励んでいくのだと。

当然、中には、

「いやいや、 [] に [] 為に [] しています。」

「 [] ではなくて、 [] で [] を [] 為に [] をします。」

という人もいるかもしれません。

そういった人は、そもそも目指しているゴールが『恋愛』ではないだけで、

別の目的であったとしても、

結果的に私たちと同じような行動原理で

動いていることは間違いありません。

その場合、



[Redacted text]



[Redacted text]

これらは、あくまで表向きの [Redacted text] でしかなく、

結局のところ、

[Redacted text]



と言えてしまえるのではないのでしょうか。

・・・であるとするば、

その人もまたダイエットに望んでいるものとは、

『時のメリット』

ではなく、

『効果をにを手にする』

だと言えるでしょう。

したがって、人に対して何か行動を起こさせるときは、

その人が求めているであろう『』

を見せてあげることがポイントとなります。

特にセールスや恋愛の場面では、

これらの意識が結果を大きく左右します。

例えば恋愛であった場合は、

女性に対して

“ [redacted] にいると [redacted] が待っているんだよ”

という『 [redacted] 』を

デート中に与えていくことが重要なポイントです。

具体的には、デート会話で・・・

=====

男性「○○ちゃんは、 [redacted] したら [redacted] に
[redacted] たい??」

女性「そうだな～、 [redacted] とか [redacted] とか [redacted] かも。」

男性「なんか楽しそうだね、それ。そしたらさ、 [redacted] じゃなくて
一緒に [redacted] とか [redacted] たら [redacted] じゃない??」

女性「いいね、それ楽しそう♪」

男性「 [redacted] とか [redacted] 一緒に [redacted] ね。
それで [redacted] は、定番の“ [redacted] ”とかもいいかなって。」

女性「ああ、いいかも。ああいう [redacted] ってなんか [redacted] のよね～」

男性「そんでね、俺が [redacted] だけど、
途中で [redacted] に [redacted] ってなって…。
でも、残りの [redacted] で [redacted] ました、 [redacted]
…ってところまで考えてるよ。」

女性「そんなところまで考えてるんだ（笑）なんか面白そうだね。」

=====

…という具合に [redacted] を伝えていくのです。

その他にも、

=====

男性「○○ちゃんって、 [redacted] だっけ??」

女性「うん、 [redacted] するのが好きだよ。」

男性「やっぱり [redacted] だったら、 [redacted] も
大事だよな。 [redacted] で [redacted] を楽しむのもいいけど、
たまには [redacted] とね。」

女性「そうかもね。私は [redacted] も [redacted] も
 [redacted] できる人が良いな～」

男性「もし俺だったら、[redacted]ときは[redacted]ながら
[redacted]かも。その時に[redacted]でも楽しいかもね。」

女性「うんうん、[redacted]いいよね。」

男性「そんでさ、[redacted]は[redacted]で二人で[redacted]のも
楽しそうじゃない??」

女性「確かにそれ楽しそう。」

男性「それが[redacted]を[redacted]ながら一緒に[redacted]たり。」

女性「ヤバい、そんなことされたら[redacted]しちゃう（照）」

男性「あとは[redacted]と一緒に[redacted]しながら[redacted]とかも
やってあげたいね。」

女性「ああ、それもやって欲しいな～（照）」

=====

…という言い回しで、

[redacted]のことを[redacted]方法もあるでしょう。

ここでポイントを伝えておきますが、

今回の会話テクニックは、

“女性がその [] を [] に [] かどうか??”

そして、

“そこに [] かどうか??”

が重要となってきます。

まずは下記の説明を見てみてください。

=====

《 [] or [] Ver.》

- [] (or []) [] で一緒に [] を作る
⇒ 一緒に [] に並んで [] を作る [] 感
- [] や [] で [] を [] を食べる
⇒ [] の [] のように [] の時間に [] らせる [] 感
- [] を [] きて [] しまい、 [] の [] を [] で一緒に食べる
⇒ [] な展開だけど [] しまいそうになる [] 感

=====

《 [] Ver.》

- [] で [] を [] で一緒に見る
⇒ [] が [] でやる定番 [] の [] 感
- [] を見ながら [] から [] をする
⇒ [] のワンシーンを [] させる [] 感
- [] を見ながら一緒に [] っ [] をする
⇒ [] 一緒に [] きたカップルのような [] & [] 感

=====

それぞれ見てもらうとわかる通り、

単に、

「 [] (or []) で [] する」

「 [] で [] 見る」

という言い方だけでは、

絶対に伝えることのできない程の臨場感がそこにはあるでしょう。

様々なキーワードや言い回しによって、

『女性があたかも [] を
仮想的に [] いるかのような [] の展開』

が可能となるのです。

もちろん、実際のデートでは、

『※ 1 []』を活用できるので、

伝えようによっては、もっともっと効果的に

女性を仮想 [] の [] に引き込むことは可能です。

※ 1 [] とは、 [] と言い、 []
以外の [] や []、 []、 []、 [] といった相手に与える []
[] 情報のことを指す。

これが仮に他のテーマであってもそう。

男性「俺と [] たら [] 見れるよ！？」

男性「俺と [] たら、 [] で [] できるよ！？」

といった直接的な [] で訴えるのではなくて、

男性「でしたらじゃない??」

↓ ↓ ↓

男性「俺だったらの時にしてあげるかな。」

と言うように、あくまで

“女性に意識”で、

そして、

“を意識”で、

会話に引きずり込んでいくのです。

そして、そこから女性に、

女性（なんか、○○君と■■■■したら■■■■みたいになって■■■■だろうな～）

と自らの■■■■をさせることによって、

男性と過ごす時間に対して

強く価値を感じさせていくのです。

このように、女性自ら「○○君と■■■■たい！！」と

欲求を掻き立てさせる戦略が、

今回の

『■■■■を■■■■させてあなたとの 時間の期待値を上げる会話テクニック』

の概要となります。

何度も言いますが、女性が男性とデートする理由は、

単純に『■■■■を■■■■』ことが目的でも

『**■**な**■**を**■**』ことが目的でもありません。

女性が真に求めていることとは、

『**■**を**■**ながら**■**と**■**に**■**している自分』

『**■**な**■**を**■**ながら**■**を**■**にしている自分』

という“**■**”が実現できている**■**”そのものなのです。